大正十二年五月下旬時恰も後藤新平とヨッ
フエとの間に半公半私的の日露交渉の最中
突如として断行せられし秘密結社日本共産党検
挙の大事件は実に朝野の耳目を聳たしめた
るが警視廳にては以前より彼等共産主義者の
挙動に注目なしつゝあり既に「石神井の会合
頃よりは殆んど確実に秘密結社の存在を覚知
し居たるも更に其の事実を攫み得たるは実に特
高係巡査部長[illegible]榊原清吉の辣腕に俟ちたる
ものなり初め榊原は佐野学門下の鑛山労働者

坂口某の挙動に注目し坂口なれば買収なし得
るものと或は酒食を供し或は金銭を与へ百方
手段を講じ遂に金百円を与へて彼の口より事
件の経過と証拠とあるべき書類等を得て遂に
共産党一網打盡の大検挙を行ふべき端緒を
握りたるなり只不思議に思はるゝことは
警視廳当局が実證を握りつゝも徒に検挙の日を
遷延し遂に佐野学、高津正道、近藤栄蔵、山
本懸蔵等の国外脱出を事件を起し又検挙の三
日の如き疾風迅雷的の手段に依らず検挙前